

地域自治推進の要は地域ビジョン、計画だ 市長「公約」プロジェクトで質疑

6日、市議会総務常任委員会が開かれ、地域交通と地域自治推進のプロジェクトについての報告と質疑が行われました。

地域交通のプロジェクトは、自家用車を持たない高齢者や学生などの通院、通学などの移動をどう確保するかを目的に結成されたとのこと。

「支線バス路線を再構築し、予約型コミュニティバスを運行する」「オンデマンド交通システムを導入することを目指す、すでに牧区などで動き出しています。」

審査の中で私は、「安塚、牧で実証運行し、他地域への展開を考えている

ようだが、地域ごとに交通事情は違う。それぞれのところで実証運行し、その結果を分析する中で運行方法を検討していくべきではないか」「支線バスの再構築と予約型コミュニティバスの運行がメインになっているが、支線バスは私の地元でも重要な役割を果たしている。支線バスをどう再構築し、利便性を高めていくのかその姿を示してほしい」などと訴えました。担当課長は検討を約束しました。

地域自治推進プロジェクトはこれまで総務常任委員会で審査してきたことと重なります。私は、これまでの審査で見落としていたこと、これまでの審査でもっと深める必要があったことをいくつか取り上げました。

その1つは推進体制についてです。「地域のことは地域で決めて、地域で実行する」仕組みを作っていくうえで人材の確保は重要課題の一つです。しかし、「その推進体制に社会教育を担当する課が常時入っていないのは問題だ」として推進体制に加えるよう求めました。しかし、担当部長は、連携の必要性を認め、協議の必要に応じて参加してもらったものの、常時、推進体制に加えることには難色を示しました。

2つ目は、「地域活性化の方向性の作成」についてです。プロジェクトが示したスケジュールでは、今年度に着手し、その後、期限を設けずに「作



【ゴマナ】キク科の多年草。漢字で「胡麻菜」と書きます。日当たりのよいところに白い花をたくさん咲かせます。草丈は1m以上にも。早い時期の茎は食用となります。花期は9月～10月、この時期、山裾に密集したキク科の花を見つければ、たいがいこの花です。花言葉は「実り」です。写真は9月29日、吉川区上川谷にて撮影しました。

成の完了・必要に応じた随時の見直し」を続けていくことになっていきます。私は地域自治を進めるうえで地域のビジョン（将来像と計画）は要をなす問題だとして、1年で、遅くとも来年度に作成するスケジュールにすべきだ。方向性は必要に応じて修正すればいい」と訴えました。今後、プロジェクトでどう検討して議会に示すか注目です。

3つ目は「(仮称)地域独自の予算」についてです。これは所管事務調査でも一定の議論をしてくれているのですが、私からは本格実施は令和6年度以降とし、令和5年度は「過渡期」と位置付けて、制度設計を充実させるよう求めました。ここでも要をなすことは地域ビジョン、地域計画です。これを各区で作成し、それらを実現するためにどのように予算を使っていくべきか議論できるルールを敷くべきだと訴えました。そのなかでこれまでの地域活動支援事業の優れた取り組みを令和5年度も実行できるようにしたことは評価しつつ、その後は地域ビジョンをモノサシに採用するかどうかを決めていく、そういう仕組みにしていくよう訴えました。

「子育て」「健康」「通年観光」「地域自治推進」など8つの市長「公



約」プロジェクトについての一回目の審査は7日で一巡しました。今回の審査では、プロジェクトでやるべき課題をもっとはっきりさせること、スケジュールのなかで、目標と年次別の取組を明確にすることなどが求められました。

次回の審査では、こうした点を踏まえた対応を期待したいと思います。
※上のイラストは総務常任委員会、下は厚生常任委員会です。

はしづめ法一の活動レポート

No.2081 2022.10.16
発行編集 日本共産党上越市議 橋爪のかず
Tel 025-548-3628
通じないときは 090-5392-1961
E-mail hasiznyg_0808@yahoo.co.jp
URL <http://www.hose1.jp/>



ブログ「ホーセの見である記」はこちら

橋爪法一 検索

春よ来い

第七二八回

達者でな

一〇月八日午前三時四九分、母の命がとうとう燃え尽きました。九八歳と六か月余の生涯でした。

母が七月二十九日、市内の病院に緊急入院することになってからの出来事は、この「春よ来い」でも書いてきました。今回は、これまで書けなかった出来事のなかから、いくつかを書きたいと思います。

その一つは、母が緊急入院することになった七月二十九日から翌日にかけてのことです。夕食中にロレツがまわらなくなるなどの症状が出て、救急車を呼ぶことにしたのは二十九日の午後八時過ぎでした。

この日の夜は救急車も忙しかったようので、わが家には頸北でなく安塚にある東頸消防署から来てもらうことになりました。

到着までには時間があるので、午後八時二〇分過ぎ、大湊区在住の弟と愛知県在住の弟のところにテレビ電話を入れました。ひよっとすれば、これが母の顔や声を見たり、聞いたりしてもらう最後となるかも知れないと思っただけです。

いうまでもなく、弟たちの顔を見て母は喜びました。そして、母は自分のことよりも弟たちのことを心配して声をかけました。これまで交通事故などで何度か大ケガをしている大湊区の弟には、「いいか、達者でいろや、ケガしな」と言いました。愛知県の弟にも「達者でな」と言いました。涙もろい愛知県の弟は、「かちや、ありがとね」と言って泣いていました。

私は、母のこれらの言葉を、「母の最期の言葉になるかも知れない」と受け止めましたが、これについては書きませんでした。書くことで、それが現実になりそうなきがしたからです。

病院で検査や診察してもらい、個室に移動したのは翌日の午前三時前です。この時、看護師さんに頼んで、病室に入れさせてもらい、母と言葉を交わしました。二人

の弟に言葉をのこしていたので、私にもと期待しました。その時の会話です。

「ばあちゃん、大丈夫かね」

「とちやか、オシ、死んだがが」

「死んでなんかいいねよ」

「脳梗塞か、助けてくれ」

いま振り返ると、これが母と交わした最後の会話となりました。私にも「達者でいろや」と言うのかと思ったら、「助けてくれ」でした。母の、この生きたいという強い気持ち、その後、七三日間、命をつなぐ力になりました。

二つ目は母の葬儀での出来事です。母の葬儀は、一三年前に亡くなった父のときとは違い、親族葬という形で執り行いました。もちろん初めてです。しかも新型コロナウイルスの關係や体調不良などで、弟や家族が三人もいない葬儀となりました。でも、母への温かい気持ちが入められた思い出深い葬儀となりました。

愛知県の弟は、母への想いを込めた弔電を寄せてくれました。「男兄弟4人を育ててくれた母。思えば、育ち盛りの兄弟が母の分まで食べてしまい、母は釜の底のご飯を指の先で食べていた姿を思い出します。世界一の母に感謝しています」という弔電です。弟のこの言葉で子ども時代の母の苦労を思い出し、葬儀式の挨拶で私は、数十年前の夜なべ仕事とその時に母がつくってくれたインスタントラーメンの話を見せてもらいました。

三つ目。母が亡くなった日の朝の出来事です。オスとメスが連結した赤とんぼがわが家の庭の水たまりにやってきました。そこで、メスが腹部の先端を水面に打ち付けるようにして産卵をしていました。新しい生命の誕生です。偶然の巡り合わせだと思いますが、見ていて感動しました。命は人間であれ、トンボであれ、親から子へ、子から孫へとつながっていくんですね。

オニバス、開花しました

吉川区の小苗代池でオニバスが花を咲かせています。

葉だけでなく、花を包む部分にもとげがあって、いかにも怖い感じがします。このとげも外敵から身を守る手段なのでしょう。

写真は12日に撮影。



ニュースフラッシュ

上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

| | 10月5日(水) | 10月12日(水) |
|--------|----------|-----------|
| 上越南消防署 | 0.053 | 0.050 |
| 上越北消防署 | 0.050 | 0.050 |
| 新井消防署 | 0.050 | 0.057 |
| 頸北消防署 | 0.050 | 0.047 |
| 頸南消防署 | 0.060 | 0.060 |
| 東頸消防署 | 0.040 | 0.047 |
| 名立分遣所 | 0.060 | 0.050 |
| 高士分遣所 | 0.053 | 0.057 |



2日、吉川区旭地区で旭地域づくり会議会長杯親善ゲートボール大会が行われました。イラストは休憩中の女性陣。この人たちと楽しいおしゃべりをしてきました。